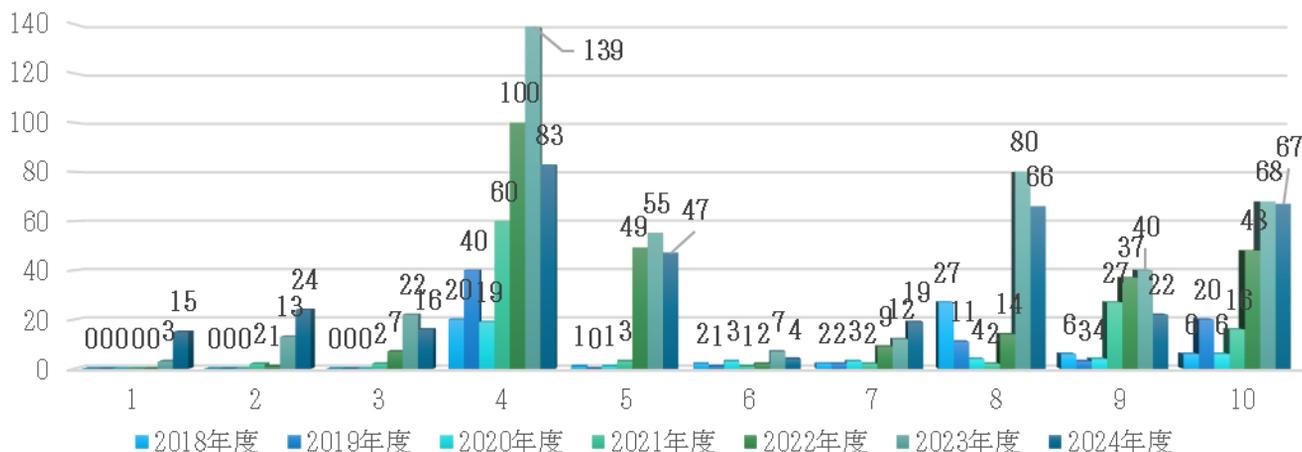


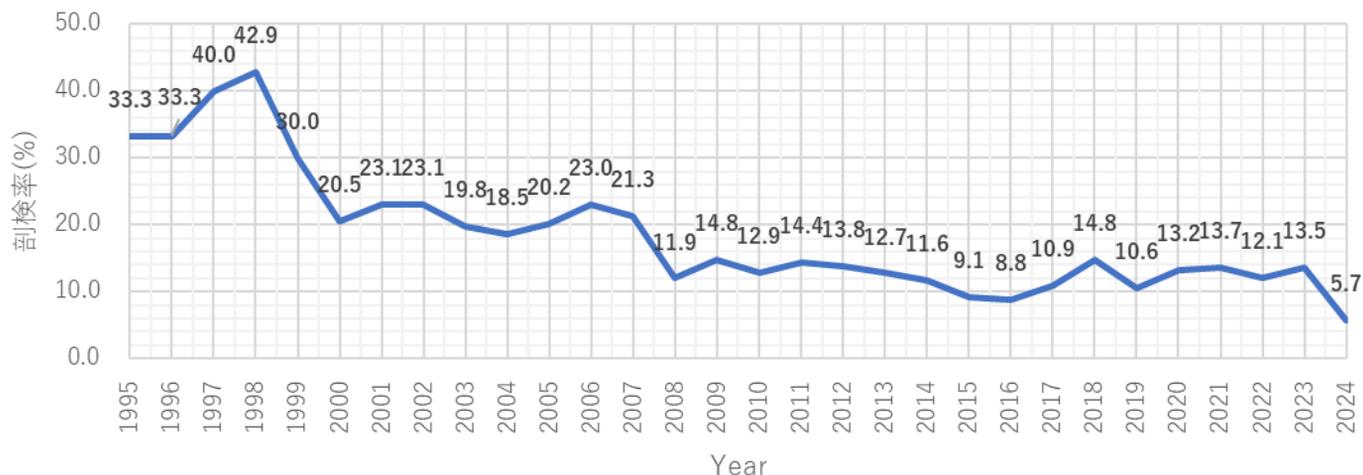
## わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者：国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科 塚本忠

2024年11月末現在でのブロック別調査未終了症例数



プリオン病の剖検率の変化 (2024年9月現在)



### 解説

- 従来、調査票が事務局に戻ってきているかどうかということで「未回収例」を捉えていたが、近年のサーベイランスによる罹患数がなかなか死亡統計数に追いつかないことから、一昨年度より、委員会で判定が終了しているかという視点で「未検討調査票」を数えなおした。2015年以降の発症症例で多くの「未回収調査票」が発掘された。最近3年間で未検討症例数はかなり減少したが、日本全国のプリオン病の悉皆調査の目標を達成するために、「未検討調査票」症例の調査が必要である。
- 剖検率問題の解決策として、(都道府県をまたいだ)剖検可能な施設のセンター化、サーベイランス委員会病理専門医による出張剖検、関係学会との協力、転院先と事務局との情報交換の活性化などが重要である。最近の剖検率の改善は、サーベイランス委員会病理部門の出張剖検、遺体の搬送による施設を超えた剖検の実施などによるものである。